

月	4		5		6		7		8		9				
	旬	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			
普通期	生育期間	は種		育苗		田植	活着期	有効分け時期	無効分け時期	幼穂形成期		出穂期	穂揃期	登熟期間	成熟期
	主な作業	<ul style="list-style-type: none"> ・レンゲすき込み(基肥) ・温湯消毒 ・土壌改良資材施用 		<ul style="list-style-type: none"> ・箱施薬① 		<ul style="list-style-type: none"> ・田植(5/5, 6/10) 	<ul style="list-style-type: none"> ・除草剤処理② 	<ul style="list-style-type: none"> ・落水(ガス抜き) 	<ul style="list-style-type: none"> ・中干し 	<ul style="list-style-type: none"> ・穂肥(出穂前28~25日) 	<ul style="list-style-type: none"> ・間断灌水 		<ul style="list-style-type: none"> ・浅水 	<ul style="list-style-type: none"> ・間断灌水 	<ul style="list-style-type: none"> ・落水
<p>水管理:除草剤散布後7日頃落水(ガス抜き)を行い、根の機能促進と分けつ促進を図ります。</p>													<p>収穫適期(黄褐色粉70~80%)</p> <p>収穫早限 黄褐色粉比率70% 粉水分28%</p> <p>収穫晚限 黄褐色粉比率80% 粉水分24%</p> <p>・適期収穫に努めましょう。</p>		

主な雑草及び害虫



コナギ



ホタルイ



アゼナ



セジロウカ



トビロウカ



イネカメムシ

イネカメムシ対策

イネカメムシの特徴は出穂後の幼い穂の基部を吸汁し不稔粉発生の要因となります。その為、対策としては出穂前に1回、出穂後7~10日に1回の2回防除が必要となります。

①箱施薬 次のいずれか1つを選択

名称	使用量	使用時期	対象病虫害
防人箱粒剤	1箱あたり50g	播種時(覆土前) ~ 移植当日	いもち病、ウンカ類、もみ枯細菌病、イネミズゾウムシ、イネドロオウムシ、ニカメイチュウ、コブノメイガ
フルスロトル箱粒剤 ※紋枯病に効果あり			いもち病、ウンカ類、もみ枯細菌病、イネミズゾウムシ、イネドロオウムシ、ニカメイチュウ、コブノメイガ、紋枯病
ブーンゼクテラ箱粒剤			いもち病、ウンカ類、もみ枯細菌病、イネミズゾウムシ、イネドロオウムシ、ニカメイチュウ、コブノメイガ

※育苗センターの苗(夢つくし、元気つくし、ヒノヒカリ)は箱施薬(ブーンゼクテラ箱粒剤)入りです。
田植前に箱施薬を散布する必要はありません。

②除草剤使用基準 次のいずれか1つを散布

種類	名称	10aあたり使用量	使用時期
粒剤 (※田植同時処理可)	ガツントZ1キロ粒剤	1kg	田植時~12日(ノビエ3.5葉期まで)
	プライオリティ1キロ粒剤		田植時~12日(ノビエ3.5葉期まで)
	オイカゼZ1キロ粒剤		田植時~10日(ノビエ3.0葉期まで)
フロアブル (※田植同時処理不可)	ガツントZフロアブル	500ml	田植後3日~12日(ノビエ3.5葉期まで)
	プライオリティフロアブル		田植時~12日(ノビエ3.5葉期まで)
ジャンボ	ガツントZジャンボ	10パック	田植後3日~12日(ノビエ3.5葉期まで)
	プライオリティジャンボ		田植直後~12日(ノビエ3.5葉期まで)
	オイカゼジャンボ		田植後5日~10日(ノビエ3.0葉期まで)

※除草剤処理後1週間は田面が露出しないようにすると効果が安定する。

〔スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)対策〕

(使用しても化学合成農薬成分にカウントされません。)

名称	10aあたり使用量	使用方法	備考
スクミンベイト3	2~4kg	混水散布	浅水にして、水口、深いところ等タニシの集まる所にスポット処理も有効

その他対策:生貝の捕殺、卵塊の圧殺、取水口への網設置、浅水管理、厳冬期の耕起等

○施肥基準

時期	すき込み時のレンゲの生育状況		基肥+穂肥の施肥体系(10aあたり)		基肥-発肥料の施肥体系(10aあたり)
	4月下旬~5月上旬(開花最盛期、田植1カ月前)すき込み		福岡嘉穂ユークン2号	油粕ペレット	有機エムコート355
施肥	レンゲがほ場の100%~70%以上生えている	旺盛で均一に生えている	施用しない	50kg 時期:出穂28~25日前 (幼穂長0.2~0.5mm)施用	15~20kg(側条施肥:15kg)
		小さく均一に生えている	10~15kg(側条施肥:10kg)		25~30kg(側条施肥:25kg)
	70%未満~20%以上生えている	小さくまだらに生えている	15~20kg(側条施肥:10~15kg)		35~45kg(側条施肥:35kg)
		ほ場の2割またはほとんど生えていない	30kg(側条施肥:25kg)		50~55kg(側条施肥:50kg)

※基肥-発肥料の場合は、穂肥時に肥料成分が不足する場合がありますので穂肥で調整しましょう。

○レンゲの栽培

- は種 10月下旬~11月上旬(病虫害対策のため早播きはしない)
- は種量 3~4kg/10a(湿田、遅播きは20~30%増量、湿田は、播種後排水溝を掘る)
- ・酸性土壌に対しては弱いので、pHは6.0以上が望ましい。
- ・種子が小さいためは種床の凹凸が大きく発芽や生育にムラがでやすい。地表面を均平にする。
- ・種子に傷を付けてと吸水が早くなり発芽や生育がよくなる。
- ①容器に種子と同量の砂を混ぜて砂付きする。
- ②コンクリートの上に種子を置いて軽く板で押さえこする。
- ③選流式小型精米機で、10~15分間磨傷する。
- ・は種時には場が乾燥しすぎると、発芽が悪くなるので、は種は耕起後では、雨が降る前日または雨が降った翌日に行う。

○すき込み

- ・すき込みは、4月下旬~5月上旬のレンゲの開花最盛期頃に行う(田植1カ月前が目安)。
- ・すき込んで1週間以上は水を入れない。
- ・5月上旬頃の花が満開直前の時、レンゲの窒素成分が一番多くなる。
- ・すき込む時期が遅くなるほど窒素成分は少なくなる。
- ・すき込む時期が田植に近くなるほどレンゲの分解で酸素不足となり苗の活着が悪くなる。

特裁米の条件

※こよみに記載している肥料、農薬以外は使用できません。
※こよみ以外の肥料、農薬を使用した場合は必ず報告して下さい。(県認証より除外します。)

肥料・農薬の注文は予約購入で経済効果を上げましょう。

農薬は、散布前に必ず農薬ラベルを確認し、散布時には、天候に注意し、他の作物にかからないように散布しましょう。
この栽培暦はJA米の生産基準を兼ねています。要件を満たさない米穀は区分してJAに出荷しましょう。

肥料・農薬・生産資材の購入はJAから!!

生産履歴は必ず記帳しましょう。